

政治意識の研究(Ⅱ)

——過疎地域における農民の政治意識と社会的性格——

久 松 昌 範

Masanori HISAMATSU : A STUDY OF POLITICAL ATTITUDES (Ⅱ)
——THE POLITICAL ATTITUDES AND SOCIAL CHARACTERS OF
PEASANTS OF DESERTED DISTRICTS IN A RURAL COMMUNITY

I 問 題

農山村における「過疎」問題は、1965年の国勢調査を契機に、関係当局、学究の間でも重大な問題としてクローズアップされてきた。

農村から都市への人口流動は、1955年以降における、日本資本主義経済の高度成長にもなる必然的な結果であった。しかし、「過疎」問題は、単に農山村の人口急減という量的な問題にとどまらず、地域における生産と生活の基盤崩壊、住民意識の消沈衰退という質的な問題を内包している。(註1)従って、その対策には、農山村の人口減少をもたらした政策そのものの再検討と同時に、地域の産業開発、生活基盤の整備、更には、住民の意識づくり、新たな事態に正しく対処する住民の意識変革が必要であろうと考えられる。(註2)このことは、すぐれて政治的、社会経済的問題であるが、同時に、住民の主体的意識の問題でもあることを示している。

住民の意識づくりのためには、生活上の悩み、日常の不満と要求から、高度の政治意識に至るまで、複雑な社会意識の実態を把握することが必須の条件である。

このような視点からの研究は、すでにいくつかなされているが、(註3)筆者も昨年、邑智町において、農民の意識調査を実施し、その一部を別稿(註4)で報告した。

註 (1) 「過疎」の定義に関しては、内藤正中『過疎と新産都』1968年(今井書店)参照

(2) 安達生恒「過疎地帯における営農と生活」『地上』1967年6月号も同様の対策を提起している。

(3) 大久保哲夫「僻地における父母の諸要求の実態」『島根教育センター年報』No.1 1966年(島根教育センター)

野村 昭「過疎地域の住民の意識」『人口急減地域対策に関する調査』1967年(島根県)

野村 昭「過疎地域の農民心理」寺本彦編『過疎地域の教育計画に関する基礎調査』1968年(島根大学山陰文化研究所)

久松昌範「過疎地域における住民の社会意識」『島根教育センター年報』No.2 1967年(島根教育センター)

(4) 久松昌範「過疎地域における農民の社会意識」寺本彦編・前掲書

本報告は、そこで分析が保留された「政治的要求」「政党支持理由」「社会的性格」について、その実態を分析し、意識づくりのための基礎資料を提供しようとするものである。

調査の概要は次のとおりである。(註5)

調査地——島根県邑智郡邑智町。総面積18,573haのうち、田畑はわずか4.8%の896haで、あとは山林83.4%その他11.8%の山村である。人口は8,816人(1965年)、1960年から5年間の人口減少率は19.6%と激しい人口急減現象を起している。農業従事者は2,448人(1965年)で、全有業者中55.7%を占め、農業が主要な職業であることを示している。しかし、各農家の平均耕作面積は0.6haと非常に零細農であり、1ha以下の貧農が86.5%を占め、2.5ha以上の農家は、わずか1.4%(20戸)を占めるにすぎない。

調査対象——中学生の子供を持つ農家の世帯主全員で(従って地域のランダムサンプルではない)、回答不備を除いて利用し得たサンプルは181人であった。

調査方法——質問紙法により、無記名で回答してもらった。調査実施回収の方法は、邑智町で唯一の邑智中学校の協力を得て、生徒全員(607人)に質問紙と封筒を配布し、家庭で父兄に記入してもらおうよう依頼し、父兄が記入後密封して、生徒を介して学校へ提出してもらった。なお、兄弟姉妹には二重に配布されないよう配慮された。

調査時期——1967年10月下旬

II 農民の政治的要求

①部落の人々に対して。行政単位の末端である部落での政治的不満と要求を探り、あわせて、農民の対人的不満を探るために、次のような質問をおこなった。「部落の人々に対して、何か不満なこと、望みたいことがあれば、何でもいいですから、たくさん書いてください」自由記述による回答を分類整理したものが表1である。(註6)

表1 部落の人々に対する不満と要求

N = 181人	人 数	%
利己主義	61	33.7
陰口, 悪口	16	8.8
因習固執	11	6.1
消極性	6	3.3
非合理性	2	1.1
非公共性	2	1.1
部落集会改善要求	19	10.5
農業協業化要求	7	3.9
悪道路	5	2.8
若者減少	3	1.7
無回答	85	47.0

(5) この調査は、島根大学地域教育研究会の総合調査の一環としておこなわれたものである。

(6) 一人が二つ以上の要求を書いたものもあるので、%はすべて(人数/181)×100で算出してある。従って、合計は100%とはならない。表2以下についても同様である。

自由回答法にともなう方法上の欠陥から、無回答のものが多いが、一方「もの云う農民」からは、実態に即したナマの声を聞くことができる。表1から明らかなことは、利己主義から非公共性まで、現在の農民の体質的な欠点が鋭く指摘されており、部落集会の改善を主張する政治的要求が、かなりみられることである。不満と要求の声を、各項目について要約して記述すると、次のようになる。

利己主義——「自己本位」「協調性なし」「団結心なし」「相互扶助を」「協力意識なし」「排他的」など。その他に、部落の長、委員に対する不満と要求も含まれている。「部落民の代表であることを忘れて」「部落の発展を考えよ」「正義感が乏しいので信頼できない」

陰口、悪口——「陰で悪口を云う」「横車をおす」「ひがむ」「他人の家庭の内部に立ち入り過ぎる」「性格が悪い、自分はやらず人を非難する」

因習固執——「旧習にこだわる」「祝、見舞のやりとりなどの虚礼」「封建的思想が強い、60才以上は身を引け」「何ごとにも大げさすぎる」「祭典費、共同募金などの戸別割当」

消極性——「なにごとにも消極的」「農業に意欲的にとりくみ、研究心が必要」「社会の様子を知らない」

非合理性——「都会かぶれして見栄をはる」「収入に合わない高価な電機器具、農機具を買う」

非公共性——「公共物を大切に」「川を汚さないこと」

部落集会改善要求——「集会をもっと開け（3～6ヶ月に1回で、あとは有線で連絡してくるだけ）」「1ヶ月に1回常会を」「話し合いの場が少ない」など、部落集会の開催回数を多くせよの要求。「集会では、何でも話し合えるようにしてほしい」「発言少なく、有力者の云いなりになる」「公開の席で云わず、陰で文句を云う」など、集会での非民主的雰囲気改善要求。「集会の出席が少ない」「集会の時間厳守」「集会を全員でやりたい」など、集会の出席状況の改善要求。これらの諸要求は、部落集会の在り方に重大な問題を提起している。

農業協業化要求——「農協で農業経営の改革を」には、ゆきづまった農業を協業できりぬけようとする要望が反映されている。

悪道路——「道路、施設が悪い」

若者減少——「若者流出し、淋しい」「若者がいない」「嫁がない」この不満と悪道路の不満には「過疎」状況の意識への反映がうかがえるであろう。

② 町の行政（政治）に対して。「邑智町の行政（政治）に対して、何か不満なこと、望みたいことがあれば、何でもいいですから、たくさん書いてください」という質問に対する自由記述の回答には、さまざまな不満と要求が示されていた（表2参照）。

表2から明らかなように、道路、交通網の整備、地域開発の要求が多く、それが、その他の不満、要求にも投影しているようである。さて、ここではより実際の問題を提起するために、農民の意見を要約し、具体的に列挙してみよう。

表2 町政に対する要求

N = 181人	人数	%
執行部	10	5.5
政治姿勢	31	17.1
地域開発 (道路, 交通網を含む)	86	47.5
教育関係	20	11.1
その他の (生活安定を含む)	17	9.4
無回答	56	30.9

執行部に対して。「町長は町政に本腰を入れよ」「町議におもねるな」「80才の町長は若い人にゆずれ」「町議は部落の利益代表となっており、町全体のことを考えない」「政治家は自己本位だ」

政治姿勢に関して。「民主的政治でない」「公明な政治を」「政治を町民に公開せよ」「広報の毎月発刊を」「町民の意見をよく聞け」「話し合える場を作ってほしい」「責任と信念に乏しい」「町議、町職員が多すぎる」「町民の立場に立った政治をしてほしい」「約束を守ってほしい。有線がついた当時、使用料150円を来年は100円くらいにすることだったが、下るところか、今では350円まで上っている」「統合統合と言って学校統合して、通学費も町が出すというわけだったのを、今になって町財政が赤字になったから通学費は自己負担等と、町当局は約束を守らない」(註、1966年度に実質統合され、1967年度から6 km以上の遠距離通学者への補助は打ちきりになった)

地域開発に関して。「町発展の基本計画がない」「産業振興政策を」「出稼ぎ対策事業を」「工場誘致を(町内で就労したい)」「農閑期の内職仕事を」「農繁期の人手不足に失対労務者を送ってほしい」「中心優先でなく、辺地の福祉に意をつくせ」「役場、農協、学校が遠く、便利が悪い」「道路、橋、農道、水路の整備」「交通の便をよくして」「ブルトーザーを町で購入し、除雪や農地整備に使用する」「農協の合理化、民主化」「財政を立てなおせ」

教育関係。「通学費、義務教育費が高い」「通学費を全額補助せよ」「通年寄宿舎を」「公民館、グラウンドの設立」

その他。「災害復旧工事を早く」「公衆衛生対策(ゴミ焼場など)」「簡易水道の完備を」「テレビ難視地区解消を」「町民の負担が重すぎる」「3日も道路奉仕させたり、中学へ1000円も寄付を強制する」「税金が高い」「賃金を上げてほしい」

以上、便宜的分類ではあるが、町政に対する不満と要求を明らかにしてきた。「もの云わぬ農民」あるいは非農業の住民には、上述以外の要求もあるであろう。ともあれ、町当局は、これらの諸要求の一つ一つに真面目に対処する義務があろう。もちろん、町独自では解決できない問題もあるが、地域住民の納得のゆくような善処が望まれる。

③ 県の行政に対して。「島根県の行政に対して、何か不満なこと、望みたいことがあれば、

何でもいいですから、たくさん書いてください」という質問に対する回答を分析した結果、地域開発、道路、交通網の整備が圧倒的に多く、次に生活安定、政治姿勢への不満と要求が続いている（表3参照）。

表3 県政に対する要求

N = 181人	人数	%
地域開発	90	49.7
道路、交通網	50	27.6
生活安定	14	7.7
政治姿勢	6	3.3
その他の	5	2.8
無回答	79	43.7

具体的内容を要約して、列挙してみよう。

地域開発に関して。「農山村開発」「産業振興」「江川開発」「山林開発で後進性打破を」「格差是正」「出雲中心県政批判」「工業開発」「出稼ぎ対策事業を」「県内で仕事を」「農協の合理化」「栗畑、造林の援助を」「農道を作る助成金を」「農業改良普及員が年一回は来てほしい」

道路、交通網の整備に関して。「道路の改修」「農地に泥が入り込む」「ほこりでぜんそくになる」

生活安定に関して。「賃金の値上げ」「物価安定」「社会福祉機関を作ってほしい」「離農対策を」「若者流出阻止を」これらの要求は、地域開発とも密接なつながりをもっていることがわかる。

政治姿勢に関して。「知事は公約を実行せよ」「知事は住民の生活苦をもっとよく知れ」「公開政治を」

その他。「災害復旧工事を早く」「辺地の教育に援助を」

以上の不満と要求には、地域の開発によって、苦しい生活を安定させてほしいという農民の切実な願いが反映されている。

④ 国の行政に対して。「国の行政に対して、何か不満なこと、望みたいことがあれば、何でもいいですから、たくさん書いてください」という質問に対する自由記述の回答を分析した結果、県政への要求と類似の内容を示していたが、地域開発と同時に、生活安定、政治姿勢にも要求の力点が置かれているといえよう（表4参照）。

具体的内容を要約して、列挙してみよう。

地域開発に関して。「地域産業の振興」「農山村開発」「格差是正」「出稼ぎ対策事業を」「生産物の価格安定」「構造改善農政批判」「後継者対策」

道路、交通網の整備に関して。町、県などの要求と同様なので省略する。

生活安定に関して。「物価値上げ反対」「生活安定」「減税」「賃金値上げ」「貧困者対策を」「社会保障制度の充実を」「年金が少なすぎる」「老後の生活を安定さす老年金を」

表4 国政に対する要求

N = 181人	人数	%
地域開発 道路、交通網	49	22.1
生活安定	9	5.0
政治姿勢	40	22.1
その他	28	15.5
無回答	5	2.8
	85	47.0

政治姿勢に関して。「公約、政策を実施せよ」「汚職政治反対」「公平な政治を」「国民大衆を考えて政治を」などの他に、次のような政治批判もみられる。「戦争反対」「憲法を守れ」「アメリカ追随批判」「後進国援助が多すぎる」「沖縄を復帰させよ」

その他。「教育費の父母負担軽減」

以上、部落の人々及び部落政治、町政、県政、国政に対する農民の不満と要求を具体的にみてきた。そこに一貫して流れているものは、崩れゆく地域を再生させるため、地域の開発、産業の振興を熱望する声である。それは即ち、窮乏した地域での生活を安定させ、地域の経済力を増大することにもつながるわけである。そのためにも、為政者は政治姿勢を正し、住民のための民主的政治をなさねばならないし、部落の住民も旧態然たる体質、特に、利己主義、陰口、悪口、因習固執などを改め、部落集会、町政、県政、国政を民主的なものに変革してゆく必要がある。このような声を、上述した農民の切々たる訴えから、われわれは聞くことができるであろう。

III 農民の政党支持理由

政党支持に関連した分析は、別稿^(註4)でおこなったので、ここでは参考までに表だけを掲げておく。

表5 農民の政党支持 (%)

支持政党 全体 及び専業別	自民党	民社党	公明党	社会党	共産党	支持なし	計
農民全体	41.4	9.4	3.9	29.3	2.2	13.8	100(181人)
専業農家	51.0	9.8	2.0	27.5	0	9.8	100(51人)
兼業 賃労働	33.3	0	12.8	35.9	7.7	10.3	100(39人)
兼業 事務職	50.0	25.0	0	16.7	0	8.3	100(12人)
兼業 季節出稼	36.7	6.7	0	40.0	0	16.7	100(30人)
兼業 日雇	30.4	8.7	4.4	26.1	4.4	26.1	100(23人)
兼業 自営	46.2	19.2	0	19.2	0	15.4	100(26人)

各政党を支持する理由には、複雑な態度構造が考えられる。日常生活意識から高度な政治意識に至るまでのヒエラルキカルな構造、各政党に対する感性的な好悪、各政党の政策の熟知度、更には、日常生活上の関係集団や地域のリーダーの政党支持、彼らとの利害関係なども政

党支持を決定する重要な要因と考えられる。このような政党支持の態度構造に関する理論的検討は、本研究の目的ではなく、むしろ、態度構造研究のための一つの資料を提供するのが目的である。従って、理論的検討は稿を改めてすることにし、ここでは、農民の具体的な支持理由の記述を分析してみたい。質問紙による自由記述の分析という限定が、以下の分析における前提条件である。

支持政党を尋ねたすぐ後で、「その政党(系)を支持されるおもな理由を、できるだけたくさん書いてください」という質問をおこない、回答したものの自由記述を、支持政党別に分類したものが表6である。

表6 政党支持とその理由 (%)

支持理由	支持政党	自 民 党	民 社 党	公 明 党	社 会 党	共 産 党
① 政策・イデオロギー		10.7	52.9	42.9	28.3	75.0
② ムード(好印象)		16.0	0	0	17.0	0
③ 政 権 担 当		6.7	0	0	0	0
④ 他 政 党 批 判		14.7	29.4	0	0	0
⑤ 現 政 権 批 判		0	5.9	0	7.6	50.0
⑥ 政 権 を と る 可 能 性		0	0	0	5.7	0
⑦ 利 益 代 表		1.3	0	0	0	0
無 回 等		60.0	47.1	57.1	47.2	25.0
N (人)		75	17	7	53	4

支持理由の7つのパターンは、筆者が大学生を対象に調査したときにも、見い出されたものである(註7)。自由回答のため、全体に支持理由のパーセンテージは低いが、そのことを加味して、支持政党別に特徴を抽出し、具体的な支持理由も列挙することにした。

自民党——ムード支持が多いが、それが政権を担当している強み、現実的な政策などによって裏打ちされており、そのムードにのって、他政党はダメと云わせているようである。①政策による支持理由の具体例「政策が現実的」「資本主義により人間的意欲を向上させる」「社会福祉の政策を徐々にではあるが実行している」など。②ムードの例「自民党は無難」「黒い霧は一部だけ」「日本をここまで建て直した力は大」「社会党と話し合う気持が生じている」「話を聞けば農家にとってよいということだから」「議事堂見学につき自民党を支持する」などで、確固とした理由はどこにもみられないが、部落における日常的な人間関係が、これらの表面的理由の背後にかくされており、それが重要な影響をおよぼしていることが示唆されている。③政権担当の例「現在は自民党を支持するより外ない。少数党を支持しても、自分達の願いは通らない。部落、町、県、中央と連絡のある、多い自民党よりないから」が代表的である。④他政党批判の例「社、共によい人物いない」「社、共はストを応援する」「社会党は農民代表でなく、サラリーマン代表である」「他政党は非現実的なことをいう」「他政党に好きななし」などであり、革新側からみれば、偏見といわれそうな理由が多い。これには、まさに、

(7) 久松昌範「政党支持の態度構造に関する研究」『ペルソナ』13, 1968年(島根心理学会)

革新の側からの働きかけの欠除が原因しているであろう。⑦利益代表の例「小作地を持っているから」

民社党——自民党，社会党を批判し，中道政治がよいという支持理由が特徴である。①政策の例「議会政治の尊重」「中道，中庸政治だから」など。④他政党批判の例「社会党は総評の先棒かつぎ」「社会党は左より」⑤現政権批判の例「自民党は公約を守らない」

公明党——宗教を根本にした政策が主な支持理由である。①政策の例「大衆福祉のため戦っている」「正しい宗教を根本に政治に取りくむ公明党の出現こそ，人々の幸せ，社会の繁栄となる。不純だらけの政治家が何人でも，我々民衆のための政治にはならない」など。

社会党——政策が主要な支持理由であるが，ムード，政権担当可能性という消極的支持理由もかなりみられるのが特徴である。これは革新傾向の浮動的支持層が社会党を支持しているからと思われる。①政策の例「労働者の理想に合う」「労働者のための社会をつくる」「現在の自民党より，我々働く者の立場を考えている」「政策がよく，国民政党に近い」「平等な政治を行なう」「下層の生活向上をめざす政策だから」などで，かなりムード的なものも含まれている。②ムードの例「農民といっしょの気持ちになってくれる」「農民の味方」「好きだから」など。⑤現政権批判の例「自民党は金持の味方」「自民にあきがきた，革新に政権を」など。⑥政権をとる可能性の例「保守のブレーキとなる」「政権をとる見込がある」など。⑤⑥の例からわかるように，これらの支持理由はきわめて消極的なものである。

共産党——政策支持，現政権批判が支持理由の特徴である。①政策の例「農漁村に力を入れている」「現在の社会を改革し，貧しい人民の暮しを守る政党は他にない」など。⑤現政権批判の例「自民党は資本家のための政党である」「自民党は公約を守らないから」

以上，支持政党別に農民の支持理由を分析し，具体的な支持理由の事例を挙げることによって，農民の政党支持の態度構造の幾分かは明らかにされたわけである。しかし，前にも述べたように，政党支持には，表面的に記述された理由以外にも，複雑な要因がからんでいると考えられるので，これらの分析を早急に一般化することは，無理であろう。上述の分析を基礎にした，よりくわしい事例研究，あるいは推計学を用いた数量的分析は今後の課題である。

Ⅳ 農民の社会的性格

日本の農民の社会的性格については，これまでも，いくつかのすぐれた社会学的分析があり，伝統主義，大勢順応主義，権威主義，利己主義などの特質があげられている。^(註8)これらの性格的特質は，今日の農山村においても，なお根づよく残存していることは，われわれの調査でも確かめられている。このような社会的性格の諸特質は，農村における保守的性格を形成しているのであるが，一方，農民には肉体労働者としての革新的な性格もあるわけである^(註9)。以上のような観点を考慮にいれながら，農民の社会的性格に，社会心理学的接近を試

(8) 例えば，福武直，塚本哲人『日本農民の社会的性格』1954年（有斐閣）

(9) 福武直『日本農村社会論』1964年（東京大学出版会）

みる場合には、多くの封建権威主義的項目、労働者的項目を用いてのテストが、一つの方法であろう。ここでは、その予備調査の意味も含めて、より巨視的な性格パターンを考えている日高六郎^(註10)の5つの仮説的類型を用いた調査をおこなった。日高六郎は、歴史的、社会的要因を考慮して、現在の日本人の社会的性格として5つの基本的類型を仮説している。即ち、庶民的性格(伝統的諸集団に埋没した前近代的性格)、臣民的性格(特殊日本的な官僚制的天皇制の強烈なインドクトリネーションのなかで培われた性格)、市民的性格(特殊的是であるが、いちおう日本の社会の資本主義化にともなって形成された性格)、大衆的性格(高度資本主義の展開のなかでいわゆる「大衆化」された民衆にあらわれつつある性格)、人民の性格(社会的変革あるいは一般に進歩的な社会運動に強い関心をもったり、あるいはそれに直接参加する民衆の中にあらわれつつある性格)である。

実際の質問では、田中国夫^(註11)の諸項目を参考にして、5つの類型、7つの選択項目を用意した。大衆的性格と人民の性格には、表現を変えた、やや未熟な段階の項目を1つずつ加えたわけである(表7参照)。調査の結果を全体及び政党支持別にまとめたものが表8である^(註12)。

全体的傾向としては、人民の性格が一番多いが、大衆的性格、庶民的性格などをまとめると、非人民の性格も、同程度に多いことがわかる。過疎地域の農民には、労働者の性格がかなりみられるとはいえ、依然として、小所有者的、保守的魂が根づよく恩存されているといえるであろう。

表7 社会的性格を問う質問項目

-
- 人には、いろいろな生き方がありますが、次にあげるものの中で、あなたの生き方に一番びったりするものに、1つだけ○印をつけてください。
- イ. 新聞やテレビで世の中のことはだいたい知り、人はめいめい自分の幸せ、家庭の幸せのことだけを考えてむつかしいことは考えず、毎日楽しくくらす。
 - ロ. 人は一人一人自由に生きる権利をもっているのだから、町内会や親類とのつきあいは、あまり深くせず、お互いに個人の秘密に立ちいらないようにして生きる。
 - ハ. 世の中のことはよくわからないが、貧しい人や不幸な人が多いから、そういう人たちのために、自分を犠牲にしても働き、世の中を少しでもよくするようにする。
 - ニ. 人からうけた恩を忘れず、世の中の義理を欠かないよう、なにごとも、世間のしきり通りにして、まわりの人とかどをたてないようにする。
 - ホ. 世の中を大多数が貧しい労働者だから、みなが団結して、いろいろな要求やねがいをとおすようにし、世の中の貧富の差のない平等な社会に改革し、みんながゆたかな生活をできるようにする。
 - ヘ. 世の中のことはよくわからないが、人にめいわくをかけないようにし、自分のやりたいことをやり、自分や家族が幸せになるようにし、毎日楽しくくらす。
 - ト. 天皇陛下のおられるおかげで日本の国はうまくいっているし、政府のなさることは、大体まちがいがいがないから、我々国民はそれにしたがっておればよい。
-

(10) 日高六郎『現代イデオロギー』1960年(勁草書房)

(11) 田中国夫『日本人の社会的態度』1964年(誠信書房)

表8 農民の社会的性格 (%)

社会的性格	政党支持	全体	自民党	民社党	公明党	社会党	共産党	支持なし
庶民的性格 (≡)		14.6	19.2	14.3	16.7	7.7	0	17.4
臣民的性格 (ト)		4.1	4.1	14.3	0	1.9	0	4.3
市民的性格 (回)		1.2	1.4	0	0	0	0	4.3
大衆的性格 (イ) (ハ)		31.0	38.3	35.7	16.7	19.3	0	39.1
人民的性格 (ク) (ケ)		49.1	37.0	35.7	66.7	71.2	100.0	34.8
計 (%)		100	100	100	100	100	100	100
N (人)		171	73	14	6	52	3	23

次に、支持政党別に、人民的性格とその他の性格を分析してみると、保守（自民党）、革新（社会党、共産党）と社会的性格の間には、明らかな相関がみられ（ $P < .01$ ）、民社党支持者、支持なし群は保守に近く、公明党支持者は革新に近い傾向を示している。人民的性格の項目内容からみて、これは、当然の結果であるともいえるが、中間政党の支持者群が、一方は保守へ、他方は革新へと分れたという結果は、興味ある事実である。このような傾向は、筆者らの大学生での調査でも確認されている（註13）。ともあれ、人民的性格は保守支持者よりも革新支持者に強くみられ、逆に、大衆の性格、庶民的性格などは、革新支持者よりも保守支持者に強くみられることが、明らかにされたのである。

V 総 括

過疎地域に住む農民の切実な政治的不満と要求の実態を明らかにする過程で、われわれは、農民の地域を変革するエネルギーを、幾度となく感じてきたのであるが、保守的体質は、現在もなお根づよく温存されており、政党支持には、依然とした保守傾向を示しているのである。その原因を探るための一つのステップとして、農民の政党支持理由の分析がなされたわけであるが、政党支持を決定する要因は、記述された支持理由だけでは、もちろん明らかにできない。むしろ、記述されたものの背後に重要な要因をみることができよう。それは、部落における農民の、利害に関係する人的つながりであり、そのような人的結合をたくみに利用する保守政治家の地盤づくりであり、革新政党の農村における活動不足であろうと推定される。このようなメカニズムについては、これまでのデータをもとに、追求さるべき今後の課題である。

なお、この調査研究に当っては、邑智町の役場、教育委員会、邑智中学校の諸先生、全生徒及びその御父兄、島根大学地域教育研究会の諸先生に、御協力を頂いた。記して感謝の意を表明したい。

(12) 回答不備が各支持政党に1人～3人あったので除いて集計した。

(13) 山本俊磨、久松昌範「大学生の政治意識——その支持政党を指標とする分析」『日本社会心理学会第6回大会研究発表プリント集』1965年

久松昌範「政治意識の研究(I)」『島根大学教育学部紀要』第1巻（人文・社会科学）1967年